

一般
社団法人 **青森県臨床検査技師会** 会報

目次

特別功労賞を受賞して.....	青森市民病院	齋藤 浩治	1 -
特別功労賞を受賞して.....	弘前記念病院	須々田 房男	2 -
特別功労賞を受賞して.....	弘前大学医学部附属病院	蔦谷 昭司	2 -
功労賞を受賞して.....	津軽保健生活協同組合 健生病院	小杉 貴久	3 -
功労賞を受賞して.....	青森労災病院	中村 忠善	3 -
功労賞を受賞して.....	むつ総合病院	丸 光夫	4 -
令和5年度都道府県リーダー育成研修会報告.....	八戸赤十字病院	手代森 京花	5 -
令和5年度青臨技臨床一般部門研修会報告.....	八戸赤十字病院	門脇 千加	6 -
令和5年度青臨技第3回臨床生理部門研修会報告.....	青森市民病院	磯谷 優香	8 -
令和5年度青臨技生物化学分析部門研修会報告.....	五戸総合病院	池田 昂志	9 -
令和5年度青臨技臨床微生物部門研修会報告.....	青森県立中央病院	柴田 絵里子	10 -
令和5年度青臨技染色体・遺伝子部門研修会報告.....	八戸市立市民病院	横浜 一樹	10 -
令和5年度第6回理事会議事録.....			11 -
令和6年度第1回理事会議事録.....			15 -
令和6年度第2回理事会議事録.....			17 -
令和6年度第3回理事会議事録.....			18 -
令和6年度第4回理事会議事録.....			20 -
令和6年度第5回理事会議事録.....			22 -

【令和5年度受賞者より】

特別功労賞を受賞して

青森市民病院 医療技術局臨床検査部 齋藤 浩治

この度は特別功労賞をいただき誠にありがとうございます。心よりお礼申し上げます。

長い臨床検査技師人生を振り返ると自分なりに日々チャレンジと失敗を繰り返しながら日常業務と技師会活動をしてきたつもりではありますが、常に職場や技師会の仲間、家族のサポートがあって継続できたと思っており、本当に感謝しかありません。ありがとうございました。

最近では生き生き輝いていた(?)就職した頃の自分と、時々セカンドライフをどうしようかと考えている今の自分との勢いの違いに年齢を感じていますが、自分にはまだまだ何かやれることはあるはずと自分を鼓舞しながら、自分なりに輝いていきたいと思っています。

昨今「働き方改革」「タスク・シフト/シェア」という世の中の流れで改革、改善しなければならないことがあり戸惑うことが多々ありますが、次世代の皆さんはこの難題を乗り越えていくための知識や技術を持っています。あとは今より少し視野を広げてチャレンジする勇気を持っていただければと思います。(自分のことは棚に上げて、説教くさくてすみません)

ここ数年理事の皆さんは前向きでとても頼もしい方々だと感じています。新しい考え方を取り入れて技師会をけん引していただいているので安心しています。2026年の青森県担当で開催される第75回日本医学検査学会も頑張ってください。

最後になりますが益々の青森県臨床検査技師会の発展とみなさんのご活躍をお祈りして受賞の挨拶にかえさせていただきます。この度は誠にありがとうございました。

特別功労賞を受賞して

弘前記念病院 須々田 房男

この度は、特別功労賞の荣誉に与り、ご推挙いただきました青森県臨床検査技師会はじめ、中黒南支部の皆様のご厚情に心よりお礼申し上げます。私の青臨技の技師会活動への参加のきっかけは、先輩からの一本の電話から始まったと記憶しております。平成10～13年度まで会計担当理事、平成14～15年度まで庶務理事(会報担当)、平成16～17年度まで事務局長の業務を担当させていただきました。

会計を担当していた当時は、理事会の日当・旅費の計算、総会の決算報告書の作成、会員の会費徴収、メーカーへの協賛依頼等、庶務担当時は会報の原稿依頼、会報のレイアウト構成等、事務局担当時は、総会資料の作成、総会・学会準備、県医務薬務課に提出する書類作成、県の監査に関する書類作成等、また当時AEDの普及により八戸市で「AED講習会」を開催することになり百数十名分の資料作成、印刷・製本をしたことなど色々な経験をさせていただきました。忙しかった記憶しかありませんが、技師会の業務を通して諸先輩がたと出会い、懇親を深める機会を得たことで多くの知識を深め経験を積むことができたと思っております。

末筆であります但これまでご指導ご鞭撻いただきました諸先輩がた、お力添えを頂きました技師会員の皆様、職場の皆様深く感謝いたします。ありがとうございました。

特別功労賞を受賞して

弘前大学医学部附属病院 蔦谷 昭司

この度は青森県臨床検査技師会特別功労賞をいただきまして誠にありがとうございます。受賞にあたり、これまで支えて下さいました弘前大学医学部附属病院検査部の職員の皆様ならびに青森県臨床検査技師会の会員の皆様に心より感謝申し上げます。

私は平成10年から4年間、元会長の一戸茂人氏のもとで青森県臨床検査技師会の理事、平成14年から2年間は元会長の中田伸一氏のもとで常任理事(事務局長)を務めさせていただきました。また、それと同時期に遺伝子・染色体研究班長も務めさせていただき、毎年研修会を企画開催してまいりました。特に記憶に残っているのは、事務局長を務めていた平成14年9月に青森県臨床検査技師会の創立50周年・法人化15周年記念式典を開催したこと、その創立50周年記念特集号の会誌を発刊したこと。なかでも、日本臨床衛生検査技師会の当時の会長でありました岩田進氏から記念講演していただき、来賓として当時の青森県知事の木村守男氏、青森市長の佐々木誠造氏から祝辞を頂戴したことが特に記憶に残っております。あれから22年がたち、一昨年創立70周年を迎えられたことをとてもうれしく思います。

現役員の皆様におかれましては、日々の会務お疲れ様です。これから様々な課題が山積しているとは存じますが、会員の皆様とともに今後ますます青森県臨床検査技師会が発展いたしますことを心よりお祈りしております。

功労賞を受賞して

津軽保健生活協同組合 健生病院 小杉 貴久

この度は青臨技功労賞受賞に選ばれましたこと、心より感謝いたします。受賞は青臨技学術奨励賞、(今は無くなりましたが) 東北学会学術奨励賞に続くもので、誠にありがとうございます。自身は学術活動と地区から続く支部活動に注力してきて、県技師会に対する活動に関しては十分とは言えず、今回は受賞選考基準に入っていたとはいえ、少し申し訳ないかなという感覚です。日臨技北日本の染色体遺伝子検査部門長をしていたときは、一人で全国学会の抄録査読を行い諸連絡するなどをしていました。遺伝子検査はまだしも、染色体分野は経験が皆無で慣れない事に四苦八苦したことなど、いま振り返ると良い思い出です。

日臨技に研究班があった時代には、最後の県微生物研究班長を担当させて頂きました。当時は金川事務局長さんの助力の下、班長がほぼ一人で研修会など企画運営を行っていました。いろんな機運もありちょうど西暦 2000 年から青臨技微生物(感染制御)の精度管理事業を始めさせて頂きました。始めたときは、先行して精度管理を行っている他県の班長さんに教を請いながら本当に手探り状態でした。精度管理報告も手書き用紙の集計から近年はネットのフォーム書き込みに変わるなど便利な時代になってきたと感じます。今は参加者の一人ですが、始まってから四半世紀経った現在も事業は脈々と受け継がれていて、これからもずっと続いていくことを思い本当に嬉しく思っています。

技師会の派生団体ですが青森県自治体病院協議会検査部会で会長をさせて頂きました。前の同僚の木村さんや野坂前事務局長さんの協力の下、ちょうどコロナ禍直前でフルに部会の多くの行事を遂行させて頂いたことは今も感謝しています。災害と感染制御に関する企画を考えたときには、研修会の数ヶ月後に世界的なパンデミックが起こることなど想像もできず、少しでも役に立ったのかなと今でも不思議な感覚です。

個人的な事ですが、昭和の終わりの年から勤めていた弘前市立病院は、2 年余り前に消滅し分限免職となるまで、最後の職場責任者として無事見届けました。病院があったときには県技師会の皆様には一戸氏を始めとする歴代のスタッフが本当にお世話になりました。関係諸氏の皆様には改めて感謝したいと思います。

自分自身は片隅を照らすだけの小さな光でしたが、これからも青臨技並びに会員の皆様に於かれましては未来永劫に渡り、光り輝く存在であって欲しいと願います。

この度は本当にありがとうございました。

功労賞を受賞して

青森労災病院 中村 忠善

この度は功労賞をいただき心よりお礼申し上げます。

1986 年 4 月から青森県赤十字血液センターを皮切りに弘前大学附属病院、青森労災病院と 38 年余り勤務してきました。労災病院では勤務の関係で熊本労災病院や福島労災病院を巡ることになりましたが、自分が成長できる良い機会だったと考えています。最初の勤務先である血液センターでは勤務 1 年目から上司に掻き立てられ学会発表をしました。内容は県内の HBs 抗原陽性率についてです。当時は今のパワーポイントと違い写真用フィルムからスライドを作成したので準備に苦労しました。また、当時としては少し趣向を凝らし陽性率のスライドをカラフルに色分けし楽しく発表したことを記憶しています。学会発表は何回か行いましたが、学術団体である技師会にとって次世代へ知識を伝える重要なイベントだと認識しています。これからも大切に継続して行って欲しいと思います。

技師会役員との関わりは青森労災病院に勤務してから 40 代半ばに支部の事務局長を引き受けました。事

務局長時代は青臨技の法人取得と重なり会計をはじめ様々な面で県と整合性をあわせる必要性があり苦労したことを思い出します。その後、青臨技病理検査の部門長を一期務めました。任期中に青森市で北日本医学検査学会が行われ、各県の病理部門の方々と情報交換会で盛り上がったことを懐かしく思います。転勤から令和 5 年に地元に戻り臨時で三八の支部長に就任することになり県理事へ携わることになりました。この県理事に携わったことが功労賞に繋がったと噂で聞いています。一年間の任期ですから棚から牡丹餅の受賞となりますが大変光栄に思います。記録よりも記憶に残る検査技師を目指し目立たぬよう努力してきましたので受賞には戸惑いもあります。しかしながら、人生において表彰を受けることなど多くはありません。素直に喜びたいと思います。推薦して頂いた技師会関係者の皆様に感謝と御礼を申し上げます。最期になります。これからの青森県臨床検査技師会の益々の発展をお祈りし挨拶にかえさせていただきます。この度は誠にありがとうございました。

この度は特別功労賞をいただき誠にありがとうございます。心よりお礼申し上げます。

功労賞を受賞して

むつ総合病院 丸 光夫

この度は、青臨技功労賞を頂き誠にありがとうございました。会長をはじめ、役員の皆様、下北支部の皆様には心より感謝申し上げます。

20 代後半に地元に戻り、むつ総合病院で 32 年間臨床検査技師として勤めさせて頂きました。今思うと初めて血液検査に携わることになった時、未経験のまま部門員を行うことになり、そこから青臨技との関わりが始まったように思います。当時、青臨技の活動を良く知らないまま参加し部門員として何もできず、各支部の先輩方から数々のご指導を頂き、血液部門員での活動を通じて下北支部以外の方と知り合うことができました。学会、研修会などでお会いするたびに血液部門以外の事でも色々教えて頂き、今でも感謝を忘れません。

その後、平成 30 年から下北支部長として理事になり、その間に平成 30 年に青森市で行われた第 7 回日臨技北日本支部医学検査学会の実務委員として携わる事となりました。理事としては力不足ではありましたが、貴重な経験をさせて頂きました。少人数で支部活動も大変な下北ではありますが、技師会を通じて人との繋がりを深め豊かな環境を築いて、今後の活動を続けていってほしい。

最後になりますが、青森県臨床検査技師会の益々の発展と会員の皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。ありがとうございました。

【研修会報告】

令和5年度都道府県リーダー育成研修会報告

八戸赤十字病院 手代森 京花

1月28日に開催された令和五年度都道府県リーダー育成研修会に参加させていただきました。はじめに日本臨床検査技師会会長の宮島喜文会長から、臨床検査技師の進むべき未来と次世代のリーダーに求められるもの、という内容でご講演をいただきました。日本臨床検査技師会の会長として、臨床検査技師の業務拡大や人口減少時代の臨床検査技師としての生き残り方を常に考えながら取り組まれてきたお話は興味深く、これから自分たちがどのように医療に関わっていかなければならないのか、考えさせられました。また、医療や臨床検査の内容だけでなく、政治的なお話なども多くしていただきました。私は今まで政治的なことにはほとんど興味が無かったのですが、職能団体として生き残っていくために、政治や行政、経済など社会的なことも勉強していかなければならないと感じました。会長が様々な視点から臨床検査技師の未来のためにご尽力なさってきたことがわかりました。

講演2の益田泰蔵常任理事のご講演は、日本臨床検査技師会、都道府県臨床検査技師会の事業活動について、という内容でご講演いただきました。スライドも交え、現在の国の医療体制や課題、また日臨技と都道府県技師会との役割やこれからのタスクシフトなどをより詳しくお話していただきました。日臨技の理事の方々がどのような考えを持ってタスクシフト事業に取り組まれてきたのか、これから我々に何を期待しているのかなど、具体的なビジョンが理解できました。これからの業務や技師会活動に前向きに取り組めそうです。

最後のステップ表を用いたワークショップでは、益田常任理事から作成方法をご解説いただき、その後5～6名ずつの班に分かれ臨床検査技師の知名度を上げるというテーマについて検討しました。まず目標をたて、どのような方法で知名度を上げていくか、班員で話し合いました。施設も立場も全く違う方々が集まっていたため、多角的な目線からどんどん活発な意見が出てきて、議論も進んでいきとても面白かったです。色々な方々の業務についての考え方や臨床検査技師への想いを感じられて、とても刺激になりました。私の班は、最後に一番面白かった内容であると表彰され、記念品をいただきました。一日を通して非常に有意義な研修会であり、今後の業務に活かしていきたいと思えます。





令和5年度青臨技臨床一般部門研修会報告

八戸赤十字病院 検査技術課 門脇 千加

令和5年度の臨床一般部門研修会は、令和6年2月10日に青森観光物産館アスパムの現地会場とZoomでのWeb配信を併せたハイブリッド形式で開催されました。

講演1は「体腔液検査をどうする？何する？」弘前大学医学部附属病院 石山雅大技師のご講演でした。体腔液検査の基本について説明して頂きました。“体腔液”とひとまとめにするのではなく、胸水、腹水、心嚢液、それぞれの検査意義について解説して頂き、とても理解が深まりました。私自身は日当直業務でしか体腔液検査を行うことがなく、これまではマニュアル通りに検査して結果を出すことで精一杯でした。しかし次に検査を行う際には、自信を持って結果を出せるように本講演で学んだことを再確認し活かしていきたいと思えます。

講演2は「血液学的アプローチによる体腔液の検査」獨協医科大学病院 新保敬技師のご講演でした。細胞塗抹標本の作製方法、染色、細胞の観察、症例紹介の流れでギムザ染色を用いた体腔液検査について説明して頂きました。染色の原理や、顕微鏡の絞りの設定、細胞観察の手順など、基本的な事も含めて非常に勉強になりました。また脳髄膜腔は薬理学的聖域であり、白血病が寛解しても白血病細胞が髄膜浸潤

している場合があるため、髄液中の細胞数が基準値内であっても腫瘍細胞が含まれていないか注意深く観察しなくてはならない、とのことでした。今後は細胞の形態や大きさ、患者の既往歴にも注目しながら細胞数を算定するよう意識していこうと思います。

講演3は「Q&A コーナー」で、事前に寄せられた質問に対して石山技師、新保技師に回答していただきました。施設間での細胞数算定方法の違いや、検査実施状況の共有の場にもなりました。

講演4では、八戸赤十字病院の林上加奈技師、大石峻也技師、手代森京花技師による症例紹介でした。同じ職場の先輩方の勇姿を見て刺激を受けました。どの症例について聞かせて頂いても、体腔液検査の知識に加えて血液、生化学、病理、細菌、臨床症状など、広い知識が必要であることを実感しました。現在携わっている業務に限らず、幅広い知識をもった検査技師になれるよう日々精進していきたいと思います。

今回の研修会では、体腔液検査に携わる上で必要不可欠な知識を再確認すると共に、臨床に有益な検査結果を報告するための知識を学ぶことができました。最後に、講師の先生方、研修会の運営をしてくださった方々に心より感謝申し上げます。



令和5年度青臨技第3回臨床生理部門研修会報告

青森市民病院 磯谷 優香

令和6年2月12日、Webにて令和5年度青臨技第3回臨床生理部門研修会報告が開催されました。今回の研修会では『目指せ！神経生理検査マイスター』をテーマに、3題の講演が行われました。

初めに「術中モニタリングでこころがけていること～マイスターを目指して～」と題して、なごやひがし整形外科・脊椎クリニックの橋本 光弘技師にご講演いただきました。術中モニタリングの際に心がけていることとして、「見やすく安定した波形を導出すること、準備を入念に行うこと、術野をよく観察すること」の三つを挙げられていました。正確な波形変化をとらえるための刺激条件や電極位置の検討、迅速な評価のための画像検査所見の事前確認など、モニタリング業務以外においても大切である内容をお話しいただき、その重要性を再確認しました。また、講演の中でお話しされていた「術中モニタリングは手術の根幹を支える技術であり、安全性の担保のために不可欠。時には術者の技術以上に手術の成否のカギを握る」という言葉が印象的でした。医療従事者として、自覚と責任を持って今後の業務に臨んでいきたいと感じました。

次に、「神経伝導検査～マイスターへの第一歩～」と題して、岩手医科大学附属病院の高橋 広大技師にご講演いただきました。神経伝導検査の基礎や波形の解釈について、健常者と患者の波形を実際に出しながら説明していただきました。また、手根管症候群や肘部尺骨神経障害、さらに青森県で多い糖尿病性末梢神経障害について症例を交えながら詳しく解説していただき、それぞれの特徴や診断に繋がる検査結果について理解することができました。波形の導出不良例に対して波形を得るために行っている工夫や、手根管症候群を見る際、正中神経における運動神経と感覚神経の伝導検査だけでは感度が6割程度であり、残りの4割を見逃さないためには比較法を用いて行うことが望ましいということを知り、業務に携わる技師にとって、とても参考になったと思います。

最後に、「ほっぷ すてっぷ 脳波検査」と題して、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院の伊澤 和美技師にご講演いただきました。脳波検査について、電極の取り付け方などの基本的な部分から、アーチファクトの例やその対処方法、賦活検査時の注意点、高齢者の検査時に気をつけることや結果の解釈について、分かりやすくお話しいただきました。講演の中で印象的だったのは、脳波検査は事前の準備から検査が始まっており、個々の相手に対して備え工夫することで、患者や臨床にとって意義のある良い結果を提供することができ、それが自身のレベルアップに繋がるというお話でした。また、高齢者や乳幼児等様々な患者への接し方も紹介してくださって、私自身とても参考になり、心電図検査等にも活用したいと思いました。

今回の研修会における神経生理検査業務は、実は私はどれも携わっていない業務だったのですが、県外でご活躍されている経験豊富な技師の方々のお話を拝聴できる貴重な機会となりました。どの講演でも皆さんが共通してお話されているなど感じたのは、より良い検査結果を導くために事前準備をしたり最適な条件や環境を模索しているということです。私も、検査技師として臨床に少しでも良い結果が報告できるよう、今回の研修会の学びを意識し、今後の業務に精進していきたいと思います。

令和5年度青臨技生物化学分析部門研修会報告

五戸総合病院 池田 昂志

令和6年2月17日(土)、ZoomのLive配信形式で「令和5年度 青臨技生物化学分析部門研修会」が開催され、39名が参加されました。研修会では青臨技精度管理調査報告、メーカー講演、教育講演2題が行われました。

まず、「青臨技精度管理調査報告(生物化学分析部門)」が青森市民病院の三上悠輔技師より行われ、精度管理調査概要、評価結果、アンケート集計結果が報告されました。アンケート集計結果では、各施設のパニック値報告実施状況や、報告後の医師の対応確認の有無の他、医師の対応確認方法の実際を示していただきました。

次に、「梅毒検査の最新情報」と題して株式会社シノテストの森本先生より講演が行われ、近年の届出数の推移、感染後の経過、抗体検査の解釈等の最新情報を分かりやすく解説していただきました。

続いて、「生化学免疫分野における業務効率化と人材育成」と題して東北大学病院の佐々木克幸先生より教育講演が行われました。検査室のレイアウト変更や機器・試薬管理記録のシステム化、誰でも業務サポートができることによる業務効率化について、また臨地実習(学生への教育)、部門勉強会、研究発表を活用した人材育成について具体的に解説していただきました。今まで通りのことを漫然とこなすのではなく、意識をもって仕事に臨むことの大切さを感じました。また、教わる側に対してのコーチングのタイプに合わせた声かけはとても興味深く感じました。

最後に、「臨床検査技師はどこへ歩むか」と題して竹田総合病院の山本肇先生より教育講演が行われました。社会の変化の中で臨床検査技師は多方面でのキャリアアップ・スキルアップが求められること、医療・ヘルスケアデータ連携遠隔医療や臨床検査技師の院外への進出、未来構想検討WGの企画の1つである「医療者が動く医療体制」として移動式手術室・薬局の紹介など多岐にわたり講演いただきました。これまで考えたことのなかった、臨床検査技師の未来やこれからの新しい取り組みについて知ることができ、臨床検査技師の活動の広がりを感じました。

今回の研修会は、検査室の業務の改善や人材育成を考えるうえで大変意義のあるものであり、また臨床検査技師の視野を広げるきっかけになるものであったと思います。本研修会を企画・運営して下さったスタッフと講師の方々に深く感謝申し上げます。



令和5年度青臨技臨床微生物部門研修会報告

青森県立中央病院 柴田 絵里子

令和5年度青臨技臨床微生物部門研修会を令和6年3月2日(土) Zoomで開催しました。研修会のテーマについては部門員で相談した結果、『正しい検査法について』となり、令和5年度青臨技精度管理調査の出題が糞便検体に関するものだったことから糞便検査について実施することになりました。

前半は2名の技師から日本臨床微生物学会より発行されている『腸管感染症検査ガイドライン第2版』に基づいた検査法等について講演していただきました。八戸市立市民病院 金澤雄大 技師からは「微生物検査の標準化を目指して『糞便編』－青森県内の実情と腸管感染症検査ガイドライン－」として、事前に実施した精度管理調査参加施設へのアンケート結果 [回収率 72%(18/25)] も交え、ガイドラインに沿った正しい検査方法と県内施設の実情などについて講演していただきました。弘前市医師会健診センター 月足正辰 技師からは「下痢原性大腸菌の検査方法」として、下痢原性大腸菌の検査方法や問題点、*Escherichia albertii* に関して講演していただきました。いずれの講演でも正しい検査方法等を示していただいたことで自施設の検査が正しい方法で行われているのかどうかを改めて確認し、見直すきっかけになったのではないかと思います。

後半は糞便検体を使用した迅速検査、遺伝子検査についてメーカー3社から講演していただきました。新型コロナウイルス検査のために遺伝子検査機器が導入された施設も多いと思われるため、今後それらを有効活用していくのに大変参考になる講演だったと思います。

微生物検査の標準化は学会等でも検討段階にあり難しい課題ではありますが、情報を共有し、青森県内において施設間差をなくしていくための第一歩として今回の研修会はとても有意義であったのではないかと思います。今年度は『糞便編』でしたが、『血液培養編』『嫌気性菌編』『抗酸菌編』など是非今後も部門員や研修会参加者の意見を取り入れながら継続してほしいと思います。

令和5年度青臨技染色体・遺伝子部門研修会報告

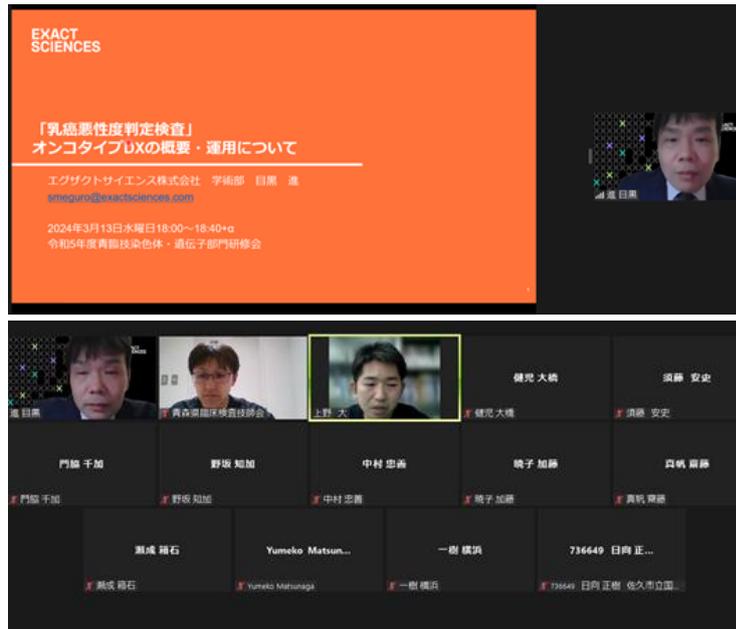
八戸市立市民病院 臨床検査科 横浜 一樹

令和5年度の染色体・遺伝子部門研修会は令和6年3月13日に Zoom による Web 配信にて開催されました。

講演ではエグザクトサイエンス株式会社 学術部の目黒 進様に乳がん再発スコアプログラム(オンコタイプDX)の紹介をしていただきました。

オンコタイプDXとはFFPEブロックより作製した未染スライドから早期乳癌の再発に関する遺伝子について調べ、今後の再発可能性と化学療法の効果の程度を調べる検査です。リスクは0~100の数値で表されます。数値の低い患者の治療では化学療法を上乗せしてもその効果が得られないことが多く、無駄な抗がん剤治療を避けることが期待されます。海外のデータによると、この検査を行うことで化学療法を実施する早期乳癌患者がフランスおよびイタリアでは54%、アイルランドでは69%減少したというデータがあり、オンコタイプDXが化学療法推奨を減少させることを示したそうです。化学療法を行う患者の多くは様々な副作用による苦しみを伴います。無駄な化学療法を省略し、抗がん剤の副作用に悩む患者の減少に貢献できるこの検査は大変有意義であると改めて実感しました。しかし日本での普及は途中段階であり、青森県では当院を含む3施設のみとのことです。今後のさらなる普及により乳癌患者がより適切な治療を受けられるようになることを期待します。また、病理検査技師としてこの検査に貢献できることは適切な検体処理やスライドの作製につきます。正確な検査結果が得られるよう正しい標本作製を日々心がけたいと思いました。

本研修会は貴重なデータを拝見し、これまでよりもオンコタイプDXについての理解が深まる大変有意義な機会となりました。最後に、講師の先生、研修会の運営をしてくださった方々に心より感謝申し上げます。



【理事会議事録】

令和5年度第6回理事会議事録

1. 日時：令和6年3月18日（土）11：30-14：00
2. 場所：青森市民病院 3階 大会議室
青森市勝田1丁目14-20 Tel：017-734-2171
3. 出席者：奥沢悦子、木村正彦、吉田泰憲、須藤安史、逆井久美子、川口裕美、佐藤舞、高松みどり、小山内誠、津嶋里奈、齋藤賢、中村安孝、中村忠善、國分慎、田村栄子、四釜育与、齋藤浩治、石山雅大
4. 欠席者：鹿摩悟、吉岡治彦

定款第5章第32条及び諸規定により、議長に奥沢会長があたり、書記に齋藤賢理事が指名され、審議が行われた。

【報告事項】

1. 学術部経過報告

吉田学術部長より以下の報告があった。

- ① 各種研修会：青臨技関連（日臨技システム登録分）のみ

【令和5年度】

- 11/27 三八支部 臨床血液部門研修会 参加者：38名
- 12/2 上十三支部合同研修会 参加者：21名
青森県自治体病院・診療所協議会臨床検査部会 参加者：26名
- 12/16 安全な輸血医療を行うための研修会 参加者：19名
- 12/20 三八支部 生物化学分析部門研修会 参加者：27名

- 12/22 中弘南黒支部 輸血細胞治療部門研修会 参加者：21名
- 1/17 三八支部 臨床生理検査部門研修会 参加者：76名
- 1/24 三八支部 臨床微生物部門研修会 参加者：22名
- 1/27 青臨技臨床検査総合部門研修会 参加者：22名
- 1/28 都道府県技師会リーダー研修会 参加者：39名
- 2/2 青臨技臨床血液部門研修会（第2回） 参加者：29名
- 2/3 第51回三八地区臨床検査懇話会 参加者：82名
- 2/10 青臨技臨床一般部門研修会 参加者：48名
- 2/2 目指せ！神経生理検査マイスター 参加者：275名
- 2/15 第8回青臨技東青支部研修会（微生物） 参加者：31名
- 2/16 第4回下北支部研修会 参加者：18名
- 2/17 青臨技生物化学分析部門研修会 参加者：32名
- 3/1 三八支部 輸血細胞治療部門研修会 参加者：16名
- 3/2 青臨技臨床微生物部門研修会 参加者：30名
- 3/7 三八支部 病理細胞部門研修会 参加者：名
参加登録がされていないため入力をお願いする。
- 3/8 青臨技精度管理調査報告会 参加者：37名（3/14時点）
- 3/13 青臨技染色体・遺伝子部門研修会 参加者：6名

【令和6年度】

- 5/11～5/12 第73回日本医学検査学会 石川県金沢市
- 6/16 第50回青森県医学検査学会（ハイブリッド開催予定）十和田市
- 12/14～12/15 第12回日臨技北日本支部医学検査学会 宮城県仙台市

- ② 令和5年度青臨技精度管理調査・・・報告会をGoogleフォームにて実施中
参加者：40名（3/16 11:00時点）
- ③ 青臨技会誌投稿規定の一部修正中・・・次回の理事会までには修正予定
サイボウズで連絡します（担当：吉田）
- ④ 次年度からの青臨技精度管理調査・・・次年度担当者からの要望
精度管理用の試料の調達および作成が難しいケースがあるため、メーカーが提供している試料の購入が可能か否かを理事会にて検討して頂きたい（生物化学分析部門のプール血清の作成）
→ 理事会としては毎年の予算申請または確保は必要。購入した場合、溶解する手順が増える事など今までと取り扱いが異なるため注意喚起が必要。価格がどれくらいになるか現在メーカーに確認しているため、分かり次第サイボウズで連絡する。

2. 公益部経過報告

木村公益部長より高校生心電図検診について以下の報告があった。
各学校の日程が固まったため、派遣する技師の調整をしている。
ほとんどの学校で開始時間が午後からとなったため去年よりは調整しやすい。

3. 渉外部経過報告

須藤渉外部長より検査と健康展について以下の報告があった。
令和5年11月19日に八戸ショッピングセンターラピアで初めて開催された。実務委員は理事4名と八戸市立市民病院の技師3名。来場者には日臨技から送られてきたパンフレットやウェットティッシュ、クリアファイルを配布し、試験紙を用いた尿の定性検査をするブースや顕微鏡で細胞診の標本や

血液の塗抹標本を観察するブースを設けた。また、高校生以下をターゲットに「臨床検査とは何か」、「臨床検査技師の紹介」というポスターを掲示した。体験ブースに来た約 20 組の方々が高齢の方が多く、認知症に関心が高かったため次回は認知症に関するポスターの掲示も検討する必要がある。予算 50 万円のうち残った分は日臨技に返金した。

4. 事務局経過報告

逆井事務局長より以下の報告があった。

(一社) 青森県臨床検査技師会

会員数 641 名 名誉会員 7 名、永年会員 44 名

4 月からの総数：新入会 17 名、再入会 3 名、転入 5 名、転出 2 名、退会 20 名

① 会計監査の予定

例年は 4 月末～5 月。会計と確認して進めていく。

② 青臨技理事の交代について

サイボウズにスレッドを立てるので交代がある場合は 4/10 までに書き込んで下さい。

③ 各支部役員および学術部門員、委員会構成員について

総会前に事務局まで連絡して下さい。学術部門員は部門長の責任で選定してもらう。

④ メディカルオンラインへの登録、HP 企業バナーについて

青臨技会誌をメディカルオンラインへ登録することや、HP の企業バナーを募集することが提案され、承認された。

⑤ 来年度の予算案について

川口会計担当から予算案が提示され、承認された。

5. 奥沢会長より報告

① 第 75 回医学検査学会について

実務委員を理事と学術部門から合わせて 10 名程度選定する。

② 青臨技年会費について

年会費を値上げしている都道府県があるが、青臨技は現状維持とする。

③ 北日本支部研修会「法人会計勉強会」について

5 名程度参加依頼が来ているため、会計に関わる理事から選定する。

現時点では次期会計担当者、佐藤舞さん、吉田副会長が参加予定。

④ 全国臨床検査技師会会長会議について

4/13 に Web で開催され、木村副会長が代理で出席する。

⑤ 災害関連について

目標協定締結 Web 説明会が開催予定。

前回と同じメンバー（奥沢会長、木村副会長、須藤渉外部長、逆井事務局長）が参加する。

⑥ 臨地実習ワークショップについて

ワークショップの枠がすぐに埋まってしまうため、今後は年間の開催回数を増やす予定。

県内では弘前大学医学部附属病院が臨地実習を受け入れているが、一施設だけではカリキュラムをクリアすることが困難になると予想される。今後は県全体で協力する必要がある。

【議題】

1. メディカルオンラインの登録について
メディカルオンラインでは電子書籍のサービスも提供している。今後会誌を電子書籍に切り替えることも踏まえ登録をしてもよいか。という提案があった。
理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。
2. HP 企業バナーについて
青臨技のHPに企業バナーを載せたい賛助会員を募り、賛助会員費や会誌の広告費とは別に掲載費をいただくことでHPにバナーを掲載してはどうか。という提案があった。
理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。
3. 功労賞の承認
・中村 忠善 ・須々田 房男 ・蔦谷 昭司
・齋藤 浩治 ・丸 光夫 ・小杉 貴久
理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。
4. 令和6年度予算案
会計より令和6年度予算案について提案があった。
理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。
5. 新人研修会について
5/25(土)に青森市のリンクモア平安閣で新人研修会を開催する。参加者はUターンも含め1年目と2年目をメインに集め、横の繋がりを強めることや技師会に加入する技師を増やすことを目的とする。会場は13時から仮押さえしており、13時30分開始予定。八戸出身の下田静香氏に接遇やビジネスマナーについて、奥沢会長に技師会のメリットについて講義していただく。
参加費については研修会をきっかけに技師会に加入する人が増えることを期待して会員、非会員ともに無料にしてはどうかという提案があった。
理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。

【その他】

1. 第48巻会誌の進捗状況について
現在修正点を確認している。会誌には投稿者の文章をそのまま掲載することが望ましいが、投稿様式を変更したため論文の1ページ目と2ページ目の下に空白が発生している。
印刷業者には修正代込みの予算で頼んでいるため、1ページ目と2ページ目をまとめることができな
いか確認する。
2. 第50回青森県医学検査学会の進捗状況について
3/13に十和田市民文化センターで会場担当者とシーワークス、國分理事で打ち合わせをした。大まかなスケジュールが決定したが当日は集合から受付開始までの時間が短いため工夫が必要。また、機器展示が6社の予定なので仮設電源を用意する。特別講演は十和田市立中央病院の藪内伸一先生に依頼する。会場利用時間は最大で17時まで延長可能だが、午前の演題発表が長引くと午後の記念講演に影響が出るため、座長には時間厳守をお願いする。

3. 第51回青森県医学検査学会の開催方法について
次回担当の三八支部よりこれまでのようにハイブリッド開催のままとするか前の形式に戻すか、県で決めてほしいという意見があった。前の形式に戻すメリットが大きいため、三八支部が担当する第51回青森県医学検査学会からはある程度前の形式に戻す方針となった。
4. HP バナーについて
県の関連や医師会などからも依頼があればバナーの掲載を検討していく。
5. 電子書籍化について
印刷代、運送代の高騰に対して、青臨技会誌などの紙媒体の電子書籍への移行を来年度より開始する方向で調整していく。

上記の事項について理事に了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。
議長は以上をもって審議を終了したことを告げた。

令和6年度 第1回理事会 議事録

1. 日時：令和6年5月15日（水）：17:30-18:30
2. 出席者：奥沢悦子、木村正彦、吉田泰憲、逆井久美子、川口裕美、佐藤舞、
高松みどり、小山内誠、津嶋里奈、齋藤賢、鹿摩悟、中村安孝、中村忠善、
國分慎、田村栄子、四釜育与、齋藤浩治、
3. 欠席者：須藤安史、吉岡治彦、石山雅大

定款第5章第32条及び諸規定により、議長に奥沢会長があたり、書記に齋藤賢理事が指名され、オンラインで審議が行われた。

【報告事項】

1. 学術部経過報告
吉田学術部長より以下の報告があった。
 - ① 各種研修会：青臨技関連（日臨技システム登録分）のみ
 - 03/07 三八支部 病理細胞部門研修会 参加者：30名
(前回の理事会にて参加人数が不明のため今回も表示)
 - 03/08 令和5年度 青臨技精度管理調査報告会 参加者：112名（最終人数）
 - 03/13 令和5年度 青臨技染色体・遺伝子部門研修会 参加者：10名（最終人数）
 - 05/11 令和6年度 青臨技 輸血細胞治療部門研修会（参加人数 未登録）
 - 05/25 令和6年度 青臨技 新人研修会（申し込み 29名）
 - 06/02 第5回 タスク・シフト/シェア実技講習会（申し込み 60名）
 - 06/15 青森県輸血療法懇話会

【令和6年度】

- 05/11～ 5/12 第73回 日本医学検査学会 石川県金沢市
- 06/16 第50回 青森県医学検査学会（ハイブリッド開催） 十和田市
- 12/14～12/15 第12回 日臨技北日本支部医学検査学会 宮城県仙台市
- ② 令和5年度 青臨技精度管理調査・・・報告会をGoogleフォームにて実施
参加者：112名（最終人数）

今後の検討課題・・・視聴者の中で自己参加登録をしていない会員がいる様子
Googleフォームでの「返信」機能を利用するかを今後は検討

- ③ 青臨技会誌投稿規定の一部修正・・・修正版（案）を作成
- ④ 次回作成する青臨技会誌への論文投稿のフォーマット（案）を作成
- ⑤ 次年度からの青臨技精度管理調査
精度管理用の試料の調達および作成が難しいケースがあるため、メーカーが提供している試料購入の検討 → 具体的な価格など判明
- ⑥ 次期各部門長および支部における支部担当者について（進捗状況）・・・5/22期限
- ⑦ 青森県医学検査学会（ハイブリッド開催予定）の進捗状況・・・國分さんより
座長の選任を現在も部門長へ打診中・・・5/22期限
- ⑧ 2026年9月に幕張メッセ（国際会議場）で開催する「第75回医学検査学会」に関して

2. 公益部経過報告

木村副会長より高校生心電図検診について以下の報告があった。
心電図検診当日に休んだ学生がいる場合、別日に実施するなどその都度対応している。
大きなトラブルは無く順調に進んでいる。

3. 渉外部経過報告

奥沢会長より検査と健康展について以下の報告があった。
日臨技から今年度も検査と健康展を開催してほしいとの依頼があった。予算は50万円。須藤渉外部長を中心に企画運営する。企画の提出締め切りは6/3。

4. 事務局経過報告

逆井事務局長より以下の報告があった。

（一社）青森県臨床検査技師会

会員数 638名 名誉会員 7名、永年会員 51名

4月からの総数：新入会 6名、再入会 1名、転入 3名、転出 4名、退会 0名

⑥ 青臨技理事の交代について

サイボウズに新理事を招待した。順次登録している段階。

⑦ メディカルオンラインについて

医学文献電子配信と電子書籍の契約を締結した。青臨技の会誌を過去10年分送った。

5. 奥沢会長より報告

① 臨地実習指導者講習会について

7/15（月）にワークショップが開催される。

申し込みが可能になるのは開催予定日の二ヶ月前。

② 日本医学検査学会について

第 74 回（担当：鳥取県臨床検査技師会）
会場：グランキューブ大阪（大阪国際会議場）
第 75 回（担当：青森県臨床検査技師会）
会場：幕張メッセ
国際学会と同時開催するため 9 月の開催

【議題】

1. 令和 5 年度収支計算書について
川口会計担当から令和 5 年度の収支計算書について報告があった
理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。

【その他】

1. 第 50 回青森県医学検査学会の進捗状況について
費用を抑えるためにランチョンセミナーを教育講演に変更した。企業展示の場所も調整する予定。総会・表彰式の時間を 50 分確保し、部門長会議は休憩時間中に行うこととした。要旨集は現在作成中。議案書は逆井事務局長が作成中のため、近日中にサイボウズでお知らせする。
2. タスク・シフト／シェア講習会について
申込者が定員に達したものの徐々に人数が集まりづらくなってきたため、今後は全国募集をかけることも検討する。
3. 日本臨床検査技師連盟役員について
現支部長の石山監事と相談して次期支部長を選出する。
4. 祝賀会開催について
叙勲受章者と厚生労働大臣表彰授与者の祝賀会を 9/7（土）に開催する予定。
須藤渉外部長が担当する。

上記の事項について理事に了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。
議長は以上をもって審議を終了したことを告げた。

令和 6 年度 第 2 回理事会 議事録

1. 日 時：令和 6 年 6 月 15 日（土）14:20-14:50
2. 場 所：十和田市民文化センター 2 階 大ホールホワイエ
十和田市西三番町 2 番 1 号 Tel：0176-22-5200
3. 出席者：木村正彦、吉田泰憲、須藤安史、逆井久美子、川口裕美、佐藤舞、
高松みどり、小山内誠、齋藤賢、鹿摩悟、中村安孝、中村忠善、田村栄子、
四釜育与、齋藤浩治
4. 欠席者：奥沢悦子、津嶋里奈、國分慎、吉岡治彦、石山雅大

定款第 5 章第 32 条及び諸規定により、議長に吉田副会長があたり、書記に齋藤賢理事が指名され、審議が行われた。

【報告事項】

1. 学術部経過報告
吉田学術部長より特になしとの報告があった。
2. 公益部経過報告
木村公益部長より特になしとの報告があった。
3. 渉外部経過報告
須藤渉外部長より特になしとの報告があった。
4. 事務局経過報告
逆井事務局長より以下の報告があった。
 - ① メディカルオンラインについて
青臨技会誌の掲載が完了した。年に一度パスワードの変更が必要なため、どのような方法で会員に周知するか検討していく。併せて文献のダウンロードができないことも周知する必要がある。
 - ② 広告費について
メディカルオンラインの運用開始に伴い青臨技会誌の広告費が無くなるため、HP の企業バナー募集に移行する。
 - ③ 令和6年度災害支援人材の育成計画に基づく研修会について
日臨技より参加依頼があった。参加者は理事の中から検討したい。興味がある方はサイボウズで連絡して下さい。

【その他】

1. 令和6年度青森県臨床検査技師会定時総会における役割について
全体写真と表彰の写真を吉田副会長に、表彰者の誘導を佐藤舞理事にお願いした。

上記の事項について理事に了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。
議長は以上をもって審議を終了したことを告げた。

令和6年度 第3回理事会 議事録

1. 日 時：令和6年6月16日（日）15:20-15:40
2. 場 所：十和田市民文化センター 2階 大ホールホワイエ
十和田市西三番町2番1号 Tel：0176-22-5200
3. 出席者：奥沢悦子、木村正彦、吉田泰憲、須藤安史、逆井久美子、久保沢勇亮、
佐藤舞、高松みどり、小山内誠、齋川牧子、齋藤賢、中島有里、金子なつき、
佐々木義明、野中健一、齋藤浩治、中村忠善
4. 欠席者：鳥谷部慎子、石鳥純子、千葉満

定款第5章第32条及び諸規定により、議長に奥沢会長があたり、書記に齋藤賢理事が指名され、審議が行われた。

【報告事項】

1. 第50回青森県医学検査学会について
逆井事務局長より、現地参加者は正会員98名、賛助会員14名、非会員1名、学生1名であったと報告があった。
2. サイボウズ登録について
旧理事のサイボウズ登録を解除するので新理事は今月中に引き継ぎをして下さい。また、精度管理委員もメールでは容量の大きいファイルのやり取りが難しいためサイボウズへ登録します。
3. 精度管理報告会について
ここ数年は年度内に行っていたが、来期は学会の前日に行う。参加できなかった人のために動画を残すが、その動画を観ても生涯教育の単位は与えない。

【議題】

1. 令和6・7年度役員、担当について
令和6年度定時総会、第三号議案で承認された理事における令和6・7年度の各役職について審議が行われた。その結果、会長として奥沢理事が推薦され了承された。また各役職についても以下のように決定された。なお、被選任者は就任を承諾した。

役職	氏名	施設
会長	奥沢 悦子	八戸市立市民病院
副会長	吉田 泰憲	青森労災病院
副会長	木村 正彦	弘前大学医学部附属病院
常任理事	須藤 安史	八戸市立市民病院
常任理事	逆井 久美子	八戸赤十字病院
理事	久保沢 勇亮	八戸市医師会臨床検査センター
理事	佐藤 舞	青森県立中央病院
理事	高松 みどり	むつ総合病院
理事	小山内 誠	つがる総合病院
理事	齋川 牧子	青森市民病院
理事	齋藤 賢	つがる総合病院
理事	鳥谷部 慎子	つがる総合病院
理事	中島 有里	むつ総合病院
理事	金子 なつき	弘前大学医学部附属病院
理事	佐々木 義明	公立野辺地病院
理事	野中 健一	八戸赤十字病院
理事	石鳥 純子	青森県立中央病院
理事	千葉 満	弘前大学大学院保健学研究科
監事	齋藤 浩治	青森市民病院
監事	中村 忠善	青森労災病院

議長は以上をもって審議を終了したことを告げた。

令和6年度 第4回理事会 議事録

1. 日時：令和6年6月26日（水）17:30-18:50
2. 出席者：奥沢悦子、吉田泰憲、木村正彦、逆井久美子、久保沢勇亮、佐藤舞、高松みどり、小山内誠、齋川牧子、齋藤賢、鳥谷部慎子、中島有里、金子なつき、佐々木義明、野中健一、石鳥純子、千葉満、齋藤浩治、中村忠善
3. 欠席者：須藤安史

定款第5章第32条及び諸規定により、議長に奥沢会長があたり、書記に齋藤賢理事が指名され、オンラインで審議が行われた。

【報告事項】

1. 学術部経過報告

吉田学術部長より以下の報告があった。

①各種研修会：青臨技関連（日臨技システム登録分）のみ

05/01 令和6年度青臨技輸血細胞治療部門研修会 参加者：15名

05/25 令和6年度青臨技新人研修会 参加者：32名

06/15 青森県輸血療法懇話会 参加者：15名

06/16 令和6年度一般社団法人青森県臨床検査技師会定時総会 参加登録：111名

第50回青森県医学検査学会（ハイブリッド開催） 参加登録：151名

【令和6年度】

12/14～12/15 第12回 日臨技北日本支部医学検査学会 宮城県仙台市

2. 公益部経過報告

木村副会長より高校生心電図検診について以下の報告があった。

欠席者等の対応を6月に行った。後は10月に一部残っているのみとなった。

3. 渉外部経過報告

奥沢会長より検査と健康展について以下の報告があった。

予算建てして申請済みのため、今年度も開催する予定。

4. 事務局経過報告

逆井事務局長より以下の報告があった。

（一社）青森県臨床検査技師会

会員数 642名 名誉会員 7名、永年会員 51名

4月からの総数：新入会 4名、再入会 0名、転入 0名、転出 0名、退会 0名

① 会誌編集のためのサイボウズ利用について

東青支部元事務局長の高正さんが会誌編集のためにサイボウズを一時的に利用することになった。利用する時期は本人と相談して決める。

② 75JAMTの実行委員について

20名ほど選出した。部門長も含めるともう少し多くなる。7月からサイボウズに登録して役割を決めていく予定。

③ 令和6年度災害支援人材の育成計画に基づく研修会について

引き続き参加者を募っている。興味がある方はサイボウズで連絡して下さい。

5. 奥沢会長より報告

① 日臨技役員について

日臨技の定時総会で役員改選が行われた。北日本支部からは代表理事副会長に山寺氏（福島）、執行理事に桑原氏（新潟）、北日本支部長に早坂氏（北海道）が選出された。

② 議決権行使について

青森県は全国第5位と非常に高い行使率だった。

③ 病理細胞部門の部門員について

決まっていなかった病理細胞部門の部門員をむつ総合病院の中村安孝さんに引き受けていただいた。

④ 75JAMT について

定時総会で75JAMTの学会長として挨拶をした。医療DXも含めて記憶に残るような学会にした。

【議題】

1. 令和6、7年度担当について

令和6年度総会、第三号議案で承認された理事における令和6、7年度の各担当は以下のとおり決定した。

役職	担当	氏名	
会長		奥沢 悦子	八戸市立市民病院
副会長	学術部長	吉田 泰憲	青森労災病院
副会長	公益部長	木村 正彦	弘前大学医学部附属病院
常任理事	渉外部長	須藤 安史	八戸市立市民病院
常任理事	事務局長	逆井久美子	八戸赤十字病院
理事	会計	久保沢勇亮	八戸市医師会臨床検査センター
理事	事務局補佐（学術、HP）	佐藤 舞	青森県立中央病院
理事	事務局補佐（公益）	高松みどり	むつ総合病院
理事	事務局補佐（渉外）	小山内 誠	つがる総合病院
理事	庶務（組織調査）	齋川 牧子	青森市民病院
理事	庶務（会誌・会報・議事録）	齋藤 賢	つがる総合病院
理事	学術	野中 健一	八戸赤十字病院
理事	学術	石鳥 純子	青森県立中央病院
理事	公益	中島 有里	むつ総合病院
理事	公益	金子なつき	弘前大学医学部附属病院
理事	渉外	鳥谷部慎子	つがる総合病院
理事	渉外	佐々木義明	公立野辺地病院
理事	渉外	千葉 満	弘前大学大学院保健学研究科
監事		齋藤 浩治	青森市民病院
監事		中村 忠善	青森労災病院

2. 祝賀会の開催について

叙勲受章者と厚生労働大臣表彰授与者の祝賀会を県内の技師が多く集まる来年の県学会で盛大に行いたいとの提案があった。

理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。

3. 青臨技会誌の電子書籍化について

青臨技会誌を電子書籍化したいとの提案があった。電子書籍化する場合は論文のみの登録となるため、各支部の支部便りや役員の名簿はHPに掲載する。また、電子書籍化後にアンケートを実施するなど会員の意見を聞く場を作る。

理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。

【その他】

1. タスク・シフト/シェア講習会について

早川先生と日程を調整中です。受講者が50人集まらないと講習会を開けないので声掛けをしていく必要がある。

2. 野球肘検診について

6月29日にむつ市で実施予定。来年度からはむつ主体で実施していく。

上記の事項について理事に了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。

議長は以上をもって審議を終了したことを告げた。

令和6年度 第5回理事会 議事録

1. 日 時：令和6年7月13日（土）11：00-12：20

2. 場 所：青森市民病院 3階 大会議室

青森市勝田1丁目14-20 Tel：017-734-2171

3. 出席者：出席者：奥沢悦子、吉田泰憲、木村正彦、須藤安史、逆井久美子、久保沢勇亮、佐藤舞、高松みどり、小山内誠、齋川牧子、齋藤賢、鳥谷部慎子、中島有里、金子なつき、佐々木義明、野中健一、石鳥純子、千葉満、齋藤浩治、中村忠善

4. 欠席者：なし

定款第5章第32条及び諸規定により、議長に奥沢会長があたり、書記に齋藤賢理事が指名され、審議が行われた。

【報告事項】

1. 学術部経過報告

吉田学術部長より以下の報告があった。

① 各種研修会：青臨技関連（日臨技システム登録分）のみ

【令和6年度】

9/14 青森県自治体病院・診療所協議会 臨床検査部会研修会 青森市

12/14～12/15 第12回日臨技北日本支部医学検査学会 宮城県仙台市

② 研修会の開催方法について

開催方法は各支部や各部門に任せるが、現地開催の場合は参加費を徴収してもよいかもしれない。ただ、参加費の管理をどうするかが課題。

2. 公益部経過報告

木村公益部長より特になしとの報告があった。

3. 渉外部経過報告

須藤渉外部長より検査と健康展について以下の報告があった。

11/10（日）八戸市ショッピングセンターラピアで開催予定。去年と同様に臨床検査模擬体験（尿試験紙による定性検査）や顕微鏡鏡検（血液細胞、がん細胞）を予定しているが、一般の方には顕微鏡の使い方が難しいためモニターにパワーポイントを移すなど工夫していく。昨年度は認知症についての問い合わせが多かったため、分かりやすいポスターを作成する予定。また、学生も来ていたため近隣の高校にお知らせをする広報活動も検討する。

4. 事務局経過報告

逆井事務局長より以下の報告があった。

（一社）青森県臨床検査技師会

会員数 639 名 名誉会員 7 名、永年会員 51 名

年度内合計：新入会 4 名、再入会 2 名、転入 3 名、転出 7 名、退会 1 名

① 委嘱状について

役員、学術部門員、各種委員会の委嘱状を発行した。

5. 奥沢会長より報告

① 災害協定について

事務局と日程を調整して 8 月か 9 月に書面を県庁に提出する予定。

② 75JAMT について

ロゴを募集したところ現在 1 件応募があった。

【議題】

1. 全国学会の実務委員選定について

2026 年に開催される 75JAMT の実行委員について提案があった。

① 学会長：奥沢悦子

② 実行委員長：吉田泰憲

③ 事務局長：逆井久美子

④ 会計責任者：佐藤舞

⑤ 顧問：齋藤浩治

⑥ 実務委員：川口裕美、高松みどり、三上ルリ子、吹越由美子、松舘洗一、齋藤賢、木村正彦、手代森京花、江刺家有希、千葉満、四釜育与、上野大、三上悠輔、松本佳菜、前山宏太、武田美香、中村安孝、鳴海一訓、大井惇矢、金澤雄大、雫石宏美、野坂知加、石澤亜紗子
理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。

2. 青臨技会誌について

逆井事務局長より以下の提案があった。

会誌の作成については、これまで通り印刷した本と同様の作成とし、全文をPDFで仕上げ、HPへ掲載したい。また、支部便りや学会要旨集、会員施設名簿、賛助会員、論文投稿案内等はHPに会員専用ページを作り、パスワード管理して保存したい。

理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。

3. 来年度の県学会について

逆井事務局長より以下の提案があった。

① ランチョンセミナーの金額

現在の5万円ではゆとりが無く支出も増えているため引き上げたい。以前弘前で開催した時の金額は20万円。一度引き上げて余るようであれば引き下げていくといった形にしたい。

② 企業展示の金額

来年度はホテルでの開催ということもあり会場費がかかることが予想される。何ブース作れるのか、その場合いくらになるのか試算して請求していきたい。

③ 演題募集期間の見直し

派遣依頼文書の発行を早くしてほしいという要望があったため、学会の二か月前に締め切りたい。演題が集まらなかった場合は期間を延長して対応する。

理事に了承を求めたところ、過半数の出席者が異議なく了承された。

4. 第5回睡眠検査学術集会后援依頼があり、Web上で了承された。

【その他】

1. タスク・シフト/シェア講習会について

開催日は10/20を予定していて、講師全員が決まった。受講者が少ない施設の責任者へ連絡して受講を促していく。

2. 令和6年度災害支援人材の育成計画に基づく研修会について

9月からの研修会に参加する方を引き続き参加者を募っている。

3. 第51回青森県医学検査学会の日程について

野中理事より来年の青森県医学検査学会の日程について以下の報告があった。

6/14(土)に精度管理講習会、定時総会、情報交換会および祝賀会を開催する。6/15(日)の学会は中路先生に公開講演を、舩甚先生に特別講演を依頼した。

上記の事項について理事に了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。

議長は以上をもって審議を終了したことを告げた。